

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-161	A-169	21-008
滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 三浦克之		
題名 (原題/訳)		
The role of alcohol and other drugs on emergency department traumatic injury mortality in the United States 米国における救急部での外傷死亡率によるアルコールおよびその他の薬物の役割		
執筆者		
DiMaggio CJ, Avraham JB, Frangos SG, Keyes K.		
掲載誌		
Drug Alcohol Depend. 2021 Aug 1;225:108763. doi: 10.1016/j.drugalcdep.2021.108763.		
キーワード		PMID
アルコール、薬物、外傷、救急部、傷害		34049099
要 旨		
<p>目的：アルコールおよびその他の薬物(AOD)は、外傷の発生リスクを高めるが、外傷に関連した死亡を防ぐ保護的な利益を示唆する研究報告もある。本研究の目的は、最近7年間の米国におけるAOD関連外傷の記述疫学を説明し、発生率対比を用いた加法スケールと調査調整後ロジスティック回帰を用いた統計的乗法スケールの両方で、入院前の死亡に対する外傷とAODの交互作用を評価することである。</p> <p>方法：米国医療研究品質調査機構のNationwide Emergency Department Sample (NEDS)から2006-2012年におけるデータを用いた。アルコールおよび薬物関連の救急部での外傷の退院について、人口ベースの割合と傾向、年齢、性別、傷害の種類と外因、コストを調査調整後の計数と平均値を全データセットで推定して評価した。比の推定値と差は、調査調整後の計数と標準誤差に基づく1000回の無作為なシミュレーションを用いて算出した。時系列での傾向の違いは、年を予測変数とした線形回帰式の傾きを比較することで評価した。</p> <p>結果：調査期間中、アルコールおよび薬物に関連した救急部の外傷退院者数は9.8%増加した。救急部入院前の死亡のリスクをみたロジスティック回帰では、年齢と性別を除いて、外傷とアルコールまたはその他の薬物の両方が死亡リスクの低下と関連していた。外傷による死亡とAODの間には、加法スケールと乗法スケールの両方で統計学的に有意な交互作用を認めた(交互作用項のオッズ比=1.76、95%CI=1.53、2.03)。研究の限界として、外傷の退院時にAODの診断を受けていたのがわずか2%のみであった。</p> <p>結論：AODの使用は、外傷の状況において保護的な利益を提供するものではなく、むしろ外傷による死亡率の重要な要因となっている。</p>		